

No. 1215

シリーズ

甦る歴史

甲州軍団出陣

— 山梨・石和 —

戦国時代のドラマ、甲州軍団の出陣。山梨県の甲府盆地。4月の盆地は満開の桃の花で埋まる。毎年、この季節になると石和町では桃の花まつりが一週間にわたり行われる。種々な祭の行事の最後は甲州軍団の出陣である。

小学校の講堂では夜の出陣を前に準備で大わらわ。次々と戦国武将が誕生していく。武田信玄太夫晴信が本陣の中央に着き、武田24将威風堂々の集結。西の夜空にのろしが上がり、風雲急を告げる伝騎が到着。出陣を前に勝ちいくさを願って行われた三献の儀。いよいよ高坂弾正忠昌信を先頭に出陣。風林火山の旗印のもと怒とうの進撃でその勇猛ぶりをうたわれた武田軍の勇姿が今、再現された。

根尾村、白山祭

— 岐阜・能郷 —

岐阜市から自動車以北へ2時間余、白山権現の峻嶺を背に根尾川の西岸に溪谷を見下す景勝にある白山神社。今の能狂言の前身である猿楽が、何百年か前の素朴な姿のまま、根尾村能郷に残されている。能郷部落は戸数52戸、人口200余人、谷合のわずかな水田に生活する僻村である。

毎年4月13日の祭礼を期して奉納されてきたこの神事芸能はこの神社の氏子16軒の人々で、シテ、ワキ、ツレ、笛太鼓と役割が厳しく世襲されてきた。能には観世、金春、など各派があるが、それらの流派とは異っており、いわば能の源流がそのまま、純粋な姿で残っている。また能面は現在20個で、翁面、女翁、鬼畜面などいろいろ、いずれも優秀なものばかりで、室町期は下らないと言われる古い見事なもので、国宝級の折紙がつけられている。後継者難で日本の古い伝統芸能が死滅していく中で、この深い山奥の神事は絶えることなく継承されている。